

セントヒル病院

医療機関2025プラン

平成 30 年 10 月 策定
令和 6 年 12 月 改定

【基本情報】

医療機関名	医療法人聖比留会 セントヒル病院
開設主体	医療法人聖比留会
所在地	山口県宇部市今村北三丁目 7 - 18
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	184 床 一般病床 101 床、療養病床 83 床 急性期 87 床 回復期 14 床 慢性期 83 床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	184 床 一般病床 101 床、療養病床 83 床 急性期 87 床 回復期 14 床 慢性期 83 床
診療科目	内科、循環器内科、腎臓内科、呼吸器内科、消化器内科、透析内科、 外科、消化器外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、放射線科、 麻酔科
職員数 ・ 医師 ・ 看護職員 ・ 専門職 ・ 事務職員	367 名 15 名 (常勤医師) 166 名 54 名 55 名

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

届出入院基本料 急性期一般入院基本料 4 (87床) 地域包括ケア入院医療管理料 1 (14床)
療養病棟入院基本料 1 (83床)

平均在院日数 (2023年実績) 13.9日

病床稼働率 (2023年実績) 全体 : 86.0% (一般 : 80.9% 地ケア : 97.3% 慢性 : 89.6%)

特徴 : 4 機能のうち急性期が中心である。

救急車受入件数 (2023年実績) 559件 (外来 : 229件 入院 : 330件)

紹介率 : 64.9% (2023年実績) 逆紹介率 : 17.4% (2023年実績)

透析患者数 : 220人 (2024年10月現在)

② 自施設の課題

- ・以前より新病院建設というプロジェクトを立ち上げ、計画を遂行する予定であったが直後に新型コロナウイルス感染症の大流行によりスケジュールが大幅に遅延となり、5類以降後プロジェクトの再開をするもコロナや戦争の影響による物価上昇及び働き方改革による工期の延長による人件費高騰等が重なり建築単価が想定を大幅に超え費用増大となり再検討を与儀なくされている状況下にある。建替えを基本に将来設計を検討していたため、ハード面含め院内の運用・体制も再調整中である。
- ・また、医師の高齢化が進んでおり、1人診療科が多い当院としては将来不透明な部分もある。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- ・人工透析を中心に当院の特徴ある部分を活かして地域貢献を図っていく。

特に長期透析患者は様々な合併症を抱えることが多いため、循環器内科や消化器内科、整形外科等の複数の専門医による総合的な診断・治療が不可欠であり、当院として可能な専門性のある治療を行いながら患者の状態に合わせて回復期及び慢性期との機能分担を図りながら、患者のQOLの向上に繋げたい。

- ・地域包括ケア病床を拡大し、ポストアキュートはもちろん、提携している介護施設等の後方支援としてサブアキュートの機能も強化する。状況に応じて更に病床数の拡大も検討する。

- ・PETやMRI等のモダリティを最大限に活用できるよう共同利用の向上と共に健康診断を含めたがん検診率向上の普及に努める。

② 今後持つべき病床機能

- ・当初の2025プランでは新病院の構想として1病棟43床を回復期として予定していたが、現時点では断念し急性期病棟の一部を地域包括ケア病床として14床→27床へ拡大する。

- ・慢性期は透析患者による長期療養の必要性が高い患者が多くいるため、現時点では現状維持とするが、今後の医療情勢や稼働状況を踏まえ適正病床数を図っていく。

③ その他見直すべき点

- ・ 以前（平成30年：17日）と比較して平均在院日数が大幅短縮となり、稼働率低下に影響あり。
ただ、今後の人口動態を考慮すると将来的にも病床削減も視野に入れて検討が必要。
- ・ 医師の高齢化を考慮すると少しでも早期に次世代の常勤医師確保が必須。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期	101		74 101
回復期	0		27 43
慢性期	83		83 40
休棟等			
(合計)	184		184
介護保険施設へ移行予定	—		
うち、介護医療院	—		

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標
2024	地域包括ケア病床を拡大（14→27） ※運用状況により更に拡大予定	回復期機能を充足

③ 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

- ・ 特になし

④ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

<病床稼働率> 急性期> 85% 回復期> 95% 慢性期> 90%

【4. その他】（自由記載）

・新病院建築は現時点で未定であるが、病院機能を維持しつつ、よりスリム化を目指すこととし、法人全体の方向性・当院としての役割・今後の診療報酬改定等を踏まえ、しっかり病院の将来設計を見直し、よりよい病院作りへ繋げていく予定。